

研究室紹介

東京理科大学理学部第一部物理学科

准教授 三浦和彦研究室

三浦研究室は2010年4月に発足したばかりの新しい研究室ですが、関川俊男研究室、中江 茂研究室の助手・講師時代を含むと30年を越え、多くの卒業生がさまざまな分野で活躍しています。今年も、上田紗也子ポスドク研究員、修士1年2名、学部4年生15名が、東京神楽坂の研究室で所狭しと活動しています。また、電力中央研究所速水洋先生(連携大学院特任教授)にもご指導を頂いています。

三浦研究室では、大気エアロゾルの気候への影響について、主に観測的手法により研究を行っています。都市大気エアロゾルについては1981年から神楽坂にある高さ60mの1号館屋上にて、粒径分布の測定を行っています。また、1991年から光学的厚さの測定も継続しています。海洋大気エアロゾルは1989年から「白鳳丸」や「みらい」を利用して、粒径分布の測定や個別粒子の組成分析、係留気球観測を行っています。また、2005年夏には富士山麓にて係留気球観測を行い、2006年からは夏季のみですが、NPO法人「富士山測候所を活用する会」のお世話になり、富士山頂でも観測を行っています。また、今年4月、東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門を発足し、共同研究を積極的に進めています。

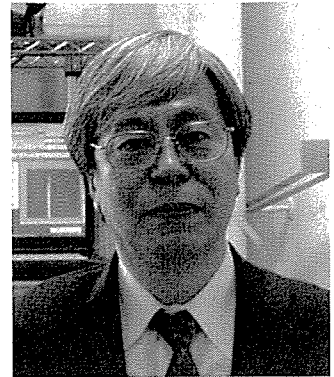
三浦研究室の教育・研究方針は、自然に対し敬虔な気持ちで接し、自然を良く理解した上で、自然現象の規則を探り、予測をすることにあります。共同観測が多いので、学生の社会性、協調性も要求されます。そのため、研究室主催のさまざまなイベントを行っています。

最近10年間に当研究室を卒業した学生69名の進路は、進学40名、公務員4名(気象庁2名)、教員2名、企業21名と多岐にわたっています。

三浦先生の素性(?)

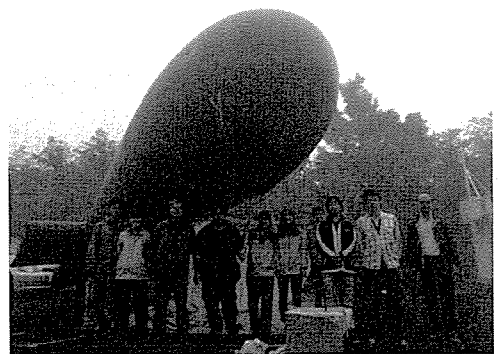
2010年度・2011年度の三浦研究室では、主に白鳳丸、富士山、落石岬で観測が行われました。院生、卒研生かまわず、行きたい人は基本的に参加です。卒研生はもちろん最初は何も分からずついて行くだけですが、現場で測器の使い方・原理等を教わります。先輩からの引き継ぎやゼミでも教わりますが、現場で自然の中で三浦先生直々に教わるのが三浦研究室流だと思います。

観測の後、先生は必ずビールを飲みます。白鳳丸設置の後は月島でビールともんじゃ、富士山観測の後は車での移動だったのでビールを諦めるのかと思いきや、フリーを2本も飲んでいました。普段の研究室でも独り言で「あひゃっ!」とか「うひゃー」とか言ったりしちゃう愛嬌のある先生です。ちなみに「うちの女房はさー」が口癖。



経歴

- 1955年 青森県八戸市生まれ
- 1978年 東京理科大学理学部第一部卒業
- 1980年 東京理科大学理学研究科物理学専攻修士課程修了
- 1980年 東京理科大学理学部第一部 助手
- 1991年 東京理科大学 理学博士
- 1992年 東京理科大学理学部第一部 講師
- 2010年 同准教授
- 2011年 東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門部門長
- 2003年4月～2008年7月
「大気環境学会誌」編集委員
- 2008年8月～2010年7月
「エアロゾル研究」編集委員長
- 2011年6月～ 日本大気電気学会会長



太郎坊における係留気球観測(2011.8.22)



白鳳丸積込み(2010.5.16)



富士山頂設置(2010.7.18)



卒業式(2011.3.19)